

紛れて誰を言え

高山さなえ

《登場人物》

上条 亜希 ……若妻会のメンバー
塩原 美香 ……亜希の幼なじみ、若妻会のメンバー
西牧 まゆみ ……若妻会のリーダー
西牧 忠雄 ……まゆみの夫
北川 はるか ……若妻会に入ったばかりのメンバー
北川 徹 ……はるかの夫
中田 麻紀 ……亜希、美香の幼なじみ

《場所》

舞台中央には新聞紙がひかかれている
新聞紙の上にはお皿が二つ、ハケ、たたんだままの新聞紙がある。
花巻の紙もある
下手奥には開きっぱなしの扉。
公民館の入り口への廊下へと続く。
上手奥は台所への扉。のれんがかけてある
台所には勝手口もある
下手奥には竹の棒が立てかけてあり、その横には数本の完成した
花巻がある

・1場・

暗転
明転

亜希子と美香の声

亜希子 いや、だからさあ

美香 嘘だわ

亜希子 そんなことないって

美香 嘘

亜希子 信じてくりやあ

美香 やだわ

亜希子 えー

亜希子、美香登場

美香 信じられるか、そんな事

亜希子 だでさあ

美香 鳥のことなんか信じられないわ

亜希子 何言ってるだか

美香 だって。あいつら、何か信用できないで

亜希子 そんなあ、かわいいでさあ

美香 関係ないわ

亜希子 うくん

美香 やりや

亜希子 うくん。本当だで

美香 はい、はい

美香、花巻を作り出す

亜希子 本当に行ったで。喋ったで

美香 まさかあ

亜希子 本当

美香 言うかやあ。文鳥が

亜希子 言った！私の顔見て・・・（鳥の真似をして）メシって

美香 ああ、そう

亜希子 真剣に聞いてくりやあ

美香 はあい

亜希子 もう

美香 分かったで。大体、何だ、メシって

亜希子 メシはメシさあ

美香 ああ

亜希子 つぶつぶの、何か穀物みたいなの

美香 ほおお、つぶつぶねえ

亜希子 わりと、勇ましかったわ、（勇ましく鳥の真似をして）メシって

美香 さつきと違うわ

亜希子 いいだ。まるで、武士のようだったわ。鳥が武士だったら、

あんな感じだよ。唐傘が見えたで。雨も降ってたわ。（また鳥の真似をして）メシ

美香 えっ、外で飼ってるの

亜希子 いや、室内

美香 （あきれて）ああ、そう・・・はい

亜希子

美香

美香、花巻の棒を渡す

亜希子 ああ、うん・・・面倒くさい

美香 そんなこと言わないの

亜希子 うん

亜希子も、花巻を作り出す

美香 メシ、以外は他に何か言うだ？

亜希子 言わない。ああ、たまに、あつ、って言うわ

美香 おかしな鳥だわ。あんたに、そっくりだわ

亜希子 あれえ？

美香・・・なあに？

亜希子・・・したらずら

美香 なにを

亜希子 おなら

美香・・・してないわ

亜希子 したわ

美香 してないって

亜希子 したって

美香 うるさいわ

亜希子 卑怯だわ

美香 何が

亜希子 音がしなかったで

美香 はあ

亜希子 すかしっぺだったで

美香・・・

亜希子 ずるいわ。すかしっぺは

美香 何それ

亜希子 音がしないってのは、ずるいで。音がしたら、おならした

って分かるずら。そしたら、あつ、あと5秒で匂いが来る
って分かるでしょ。逃げられるわ、そしたら

美香 何、5秒って

亜希子 5秒くらいだで。大体。まあ、風向きや、湿度、体質にも

よるわ。あんたぐらいになると3秒だわ。駿足だから

美香 くだらない

亜希子 だでさ、卑怯だだよ。あんたの行動は。すかしっぺは。急

に来るで。予告なしだで。あの音は大事なお知らせだで、

警報だで。ぶーって。逃げろうって

美香 はいはい

亜希子 人として最低だで

美香 そこまで

亜希子 私の鼻も肺も犯されたで

美香 ・・ごめんなさい

亜希子 やっぱりしたずら

美香 した

亜希子 ほうら。認めたわ

美香 まだ匂う？

亜希子 ん？・・あつ、もう、そうでもないわ

美香 じゃあ、いいずら

亜希子 そういう問題じゃないで

美香 もう、いいわ

亜希子 一言いって欲しかったわ。するでって。礼儀だで、親しき

仲にもだで

美香 今度からそうするわ

亜希子 頼むわ

沈黙

美香 みんな、いつ帰ってくるずら

亜希子 ああ

美香 本当はさ、もっと大勢で準備するもんだでさ

亜希子 しようがないわ。不安だで、みんな、村がどうなるか瀬戸

際だで

美香 でも、噂ずら？

亜希子 ああ

美香 二つに分かれるなんて、おかしいわ

亜希子 うん

美香 もともと一つだに、おかしいわ

亜希子 うん

沈黙

亜希子 はあ・・

美香 何？

亜希子 何でもない

美香 何？

亜希子 合図

美香 は？

亜希子 分からなきや、いいわ

美香 ああ・・えっ・・した？

亜希子 したわ、刺激されたわ、あんたに

美香 何それ・・やだ

亜希子 大丈夫だで。臭くないで。私のは

美香 うそ

亜希子 ホント、ホント

美香 もう

亜希子 あだ討ちだわ

美香 は？

亜希子 へのあだ討ちだわ

美香 相打ちすら

亜希子 ああ。まあ同じだわ。くだらない事には変わらないわ

美香 何それ。大体、分かりにくいわ、合図が

亜希子 そうか

美香 うん。はあ、じゃ、分かりにくいわ

亜希子 同じ、は行にしたらに

美香 ああ。へ、と

亜希子 そうそう。最大のヒントだ

美香 くだらない

二人、笑い転げる

美香、立ち上がり竹の棒を持ちに行く

美香 はい

亜希子 ある

美香 一本しか持っててないで

亜希子 そんなに出来ないで

美香 だって、すぐ出来るでしょう

亜希子 やだわ

美香 いいで

美香、座る

亜希子 あっ

亜希子、何か言いたげな様子

美香 何？・・・観た？

亜希子 観た！

美香 観たんだ

亜希子 最終回だ

美香 あー。でも、よく起きたわ、あんたが

亜希子 主婦の唯一の楽しみだ。ガオレンジャー

美香 どうだった？

亜希子 それがさあ。地球の平和を立派に守ったわ。彼らは

美香 そうか。守ったか

亜紀子 そして、彼らは普通に就職したわ

美香 ああ。良かったわ。仕事があつて。不況だに

亜紀子 うん。でもさあ、びっくりするくらい普通だよ。とても

正義の味方のその後とは思えないわ

美香 へえ

亜希子 まず、レッドはさあ、動物病院の医者になったわ。しかも

何故かマダムに人気の

美香 へえ

亜希子 で、グリーンはどうゆうわけか、東北で牛の乳しぼってた

わ

美香 何だそれ

亜希子 酪農だわ。で、近所のおじさんに「おめえ、よく頑張るわ」

とか言われて、で、なんて答えたと思う？

美香 えっ、グリーンでしょ

亜希子 「俺、夢ありますから」って

美香 うそ

亜希子 本当、ダサさの極みだわ

美香 夢って、寝てる時のことかやあ

亜希子 ねえ

美香 あっ、後は。女の子いなかったっけ？

亜希子 ああ、えっと、何色だっけ

美香 ピンクすら、女だ

亜希子 違うだよ。確かピンクはいなかったで

美香 そうだっけ

亜希子 シルバーだっけか

美香 年寄りだわ、それじゃあ

亜希子 ああ、そうか・・そうだわ、確か実家に帰ったわ、家事手

伝いだわ

美香 それもなんか

亜希子 あとは

美香 黒い人いなかったっけ

亜希子 ああ、ブラックだわ。そうだわ、ブラックはサーファーにな

ったわ

美香 それも不安定だわ。大体、収入があるだ？サーファーって

亜希子 しかもさ、日本海でふんどしだったわ

美香 それ、何か勘違いしてりやしねえ

亜希子 ねえ、ふんどしだ

美香 赤？

亜希子 白だったわ。ブラックだに

美香 ああ

亜希子 微妙な後姿だったわ。ふんどしが風に揺れてたわ。波のよ

うだったわ

二人、また笑い転げる

まゆみ、上手より登場

まゆみ ああー、疲れたわ。・・休憩？

美香 ああ、うん

亜希子 ・・カレーは？

まゆみ うん。出来た

亜希子 そう、ご苦労様

まゆみ いえいえ。はあ、疲れたわ

美香 ああ、ご苦労様

まゆみ いえいえ。50人分なんて初めて作ったで

美香 ああ

まゆみ いつもは、もっと少ないから

美香 うん

まゆみ はるかさんも手伝ってくれたから、まあ、何とか

亜希子 ああ

まゆみ どう？、花巻

亜希子 まあ、見ての通りだわ

まゆみ あ、ああ

美香 ちよつと、やる気が起きないでさあ

まゆみ ああ、まあねえ

亜希子 はるかさんは？

まゆみ お茶、入ってる

美香 こき使ってんじゃないの

まゆみ そんな事ないで

亜希子 いい人だわ

まゆみ まあ、結構必死だわ、田舎に慣れようとして

美香 ああ

亜希子 あれ？、でもさあ、旦那はもともとこっちの人ずら？

まゆみ ああ、そうみたいだわ。小学校まで、ここに住んでたらし

いで

美香 へえ

まゆみ 姑がうるさいだよ、また

亜希子 ああ

まゆみ 大変だわ。あれは

亜希子 忠雄くんは？

まゆみ 外で山車直してる

美香 ああ

まゆみ お祭り好きだで、あの人は

亜希子 うん

まゆみ どうなろうと、一人でもやる気だで、しょうがないわ

まゆみ、横になる

まゆみ 私たちも、ちょっと休憩したらやるで

美香 ああ、まあ、私たちもそんなにやってないで

亜希子 うん。急がないでもいいから

まゆみ でもさ、分らないで。ちゃんと、いつもと同じようにやる

るかもしれないで

美香 そうだけどさ、本当に分らないから。やらないかもしれ

ないで

まゆみ だでさ・私たちには分らないで

まゆみ しょうがないわ

亜希子 まあ、まあ、まあ、まあ

美香 うるさい

亜希子 まあ

まゆみ 花巻は大事だで。御守りだで

美香 分かってるわ

まゆみ これなきや、戦えないで。お祭りじゃないで

美香 だけどさ

まゆみ そんなに嫌なら、来なかったらよかったに

美香 そんな言い方ないから。久しぶりだで。若妻会、最近な

ったで

まゆみ だから、これを機会にって言ってるから

美香 ・・ああ

まゆみ 大体、水下は来てないで。公民館水下にあるだに。私達は、

水上は、はるかさんもいれて3人来てるで。そっち美香さ

んだけだで

美香 だでって・・みんなやる気ないって。それどころじゃない

で

まゆみ おかしいわ、そんなの

美香 でも、あと麻紀が来るで

亜希子 はるかさん、遅いわ

まゆみ ああ。外にお茶持っていつてるで

亜希子 そう

まゆみ はるかさん

はるか はーい

まゆみ こっち、来ましょー

はるか (言いながら登場) はーい

・2場・

はるか すいません。遅くなりました

まゆみ あ、ごめんねえ。ありがとう

はるか いえいえ

はるか、座る。お茶を置く（7つの麦茶）

まゆみ 外は、どう？

はるか 何か、盛り上がってますよ。二人だけなのに。どうぞ

亜希子 ありがとう

美香 二人って

はるか ああ、うちの主人も来てるんですよ

美香 ああ

亜希子 仲がいいわ。あの二人は

はるか ええ

まゆみ 本当だわ

はるか 何か、こっちに来てお茶飲むって

まゆみ ああ。外は熱いで

亜希子 じゃあ、本当に休憩するだわ。私たちも

美香 そうするか

まゆみ また？

亜希子 一応、やってたで。だから

はるか こうなるんですね。花巻って

美香 ええ

はるか きれいですねえ

亜希子 何か、自分の事言われたみたいだわ

美香 違うで。あきらかに

亜希子 なかなか進まないだよ

はるか ええ。私も作ってみたいです

美香 一緒にやりましょや

はるか はい

はるか、立ち上がる

亜希子 休憩したら、やるで

はるか あ・・はい

はるか、座る

忠雄、登場

忠雄 暑いわ。これは

まゆみ お疲れ様

美香 お疲れ様

忠雄 どうも

忠雄、座る

はるか お茶、どうぞ

忠雄 ありがとう

はるか あれ、うちの人は

忠雄 トイレ行って来るって

はるか ああ

美香 ちゃんと教えただ？場所

忠雄 教えたわ。やっぱり、知らなかったで

はるか えっ

まゆみ 先週の回覧板見た？

はるか ・・ええ

亜希子 そこに、書いてあっただよ。トイレ、ここつまったで

はるか えっ、使えないんですか？

美香 うん

巫希子 だで、裏の組長さんちの借りるだよ。しばらく

はるか そうなんですか

巫希子 それが、大変だよ

忠雄 俺さっき行ったんだけど。危なかったわ

美香 やっぱ

はるか えっ、何が大変なんですか？

忠雄 まず、入り口が分かりにくいで

はるか えっ

まゆみ 垣根ぐるんでしょ

忠雄 うん

美香 玄関も分かりにくいで

忠雄 そうだよ。行きたくなつてから行ったら、アウトだよ

巫希子 でも、一番の問題はじいさんずら

まゆみ ああ。私も1回つかまったわ。なんかの会合で

忠雄 話し好きだ

美香 戦前の話からするで

はるか ああ

巫希子 長いだよ。それが

まゆみ でもさあ、何か変だよ。戦時中の話がやっぱり盛り上が

るんだけど、その後急に江戸時代の話になるで

巫希子 ああ

まゆみ しかも、まるで、その時代に生きてみたいに話すで

美香 そうそう

忠雄 絶対、終戦にならないで

美香 ボケてるでしようがないわ

まゆみ うん

はるか 大丈夫かなあ

忠雄 大丈夫だよ、いざとなれば、どっか隅でやればいいで。男

だ

はるか ああ

まゆみ じきに来るわ

はるか ええ

忠雄 おお、そうだ。さつきさあ、そこで、ミッキー見たわ

まゆみ また

忠雄 まあ、しょうがないわ。古いで、ここは

美香 やだ、まだいるんだ。ミッキー

忠雄 うん。こりや、何匹いるかわからんわ。結構、大きなミッ

キーだったわ

美香 やだな

はるか ・・何ですか？ミッキーって

まゆみ ミッキー。ミッキーマウス

はるか えっ、ミッキー？

忠雄 ま、その名の通り、ねずみの事だよ

はるか ・・ああ

忠雄 ここでは親しみをこめて、ミッキーと呼んでるで。マウス

まで言わないところがルールだよ

はるか へえ。なんだ。びっくりした

まゆみ ちよつと、かわいいすら

はるか ええ、でも、やっぱりいるんですね。田舎は

忠雄 北川さんちはいないだ

はるか 家は新築なんだ

忠雄 おお、そうか

はるか 私、見たことないですよ。ねずみなんて

忠雄 ここは、いっぱいいるで。そのうち見るわ

はるか はい

美香 家はちよつといるわ

亜希子 家はいつぱいだ

はるか へえ

美香 あんたんちは古いから

亜希子 ねずみと一緒に暮らしてるといっても過言じゃないわ

まゆみ 家も同じだわ。そのたんび騒いでるで、私。嫌いだ

美香 まあ、ねずみが好きな人もそうはいないわ

まゆみ ああ

亜希子 でもさ、デイズニールランドのミツキーは人気者だわ。ねずみだに

美香 ああ

忠雄 それもそうだわ

まゆみ あんなに、でかいにね

亜希子 うん。等身大だわ

まゆみ 何で、あんなにみんなに愛されてるすら

亜希子 愛情を一身に受けてるで

美香 不思議だわ

亜希子 謎だわ

美香 あんた、さつきから微妙に似たような言葉が続けてるわ

亜希子 うん。私の中でちよつとはやってるで。で、もうそのはやりは終わったで。今、終わったで

美香 ああ、そう

忠雄 でもまあ、人型だで。人間に近いで

まゆみ ああ・でも、やっぱりねずみはねずみだわ。それには変わ

美香 うーん

まゆみ 私たちは騙されてるだわ。ミツキーに

亜希子 えっ

美香

まゆみ

亜希子

まゆみ 僕はだいたいようぶですよーって。人間の味方ですよーって。

忠雄 で、いつかくる復讐の時を虎視眈々と狙って

まゆみ お前、大丈夫か

忠雄 えっ、どうして

美香 だって

美香 復讐って

まゆみ だでさ、仲間が沢山殺されてるで、人間に

美香 ああ

まゆみ 怖いわ。ミツキーは。危険だわ。あの笑顔に騙されちゃい

はるか けね

まゆみ ねずみ、相当嫌いなんですね

まゆみ うん。嫌い

下手の方で音がする

まゆみ あっ

忠雄 ミツキーだわ

まゆみ 来たわ、とうとう来たわ。戦争だわ。人間とミツキーとの

忠雄 もういいわ

まゆみ えー、やっときや

忠雄 また、俺たちで始末するで

まゆみ そんな、男だけのものじゃないでね。女も戦えるで

忠雄 何言ってるだか

亜希子 盛り上がってるわ

美香 うん

まゆみ 若妻会で戦うで

美香 えっ、やだわ、そんなの

まゆみ 何で、女だって戦えるで

亜希子 別に戦わなくてもいいから。共存出来るで。人間とねずみ

は

美香 それは、あんたんちだけだわ

まゆみ やだわ、共存なんて

忠雄 もう、いいわ。ねずみの話は

また、下手の方で音がする

まゆみ でも、私たちには武器がないわ

美香 まだ言ってるわ

まゆみ 武器・ないわ。どうしたらいいから。戦えないのは悲しいわ。それは、もう負けと同じだわ。守れないわ

忠雄 どうだ。進んでるだけか

まゆみ 戦わないと強くなれないで

亜希子 ・・まあ、見ての通りだわ

忠雄 ああ

美香 二人じゃ無理だわ

忠雄 沢山あるでなあ

はるか 私たちもこれからやりますから

忠雄 ああ・・これ、大事だで。頼むわ

美香 ああ

忠雄 武器だで

亜希子 でもさあ、お神輿の上に飾るだけなら、実際

忠雄 まあ、そうだけどさ。昔はこれで戦ったで

はるか へえ

美香 こんな棒で？

忠雄 うん。うちのじいちゃんの頃とか、激しかったで

美香 へえ

忠雄 じいちゃんの時は、赤い紙はなかったで

美香 えっ、2色だっただ？

忠雄 染めるのは2色で、あとは白でよかっただよ。血に染まっ

たで

はるか へえ

美香 だで、御守りになるだね

忠雄 まあ、今は大人しいもんだわ。でも、祭は祭だで。無償の

爆発だで。それは今も昔も変わらんで

美香 ああ

忠雄 たださ、今年は分からんわ。最後かもしれないで。激しく

なるかもしれないわ

亜希子 でも、分かんないから

忠雄 いや、本当らしいだよ。さつき、谷口さんが来て、有力な

のが水上は坂田市になるだで。で、水下は東郷や三田と

一緒になって新しい市になるみたいだだよ

美香 それ本当だだ？

忠雄 ああ。まあ、もめてるらしいわ

美香 どうなるから

亜希子 さあ

美香 水上はいいわ。お宮そっちだで

忠雄 ああ

美香 私たちはどうなるから

忠雄 まあ、分からんで。まだ

美香 ああ

まゆみ じゃあ、ここは、新しい市になるってことか

忠雄 えっ、ああ、まあ

まゆみ じゃあ、私達のところは、公民館がなくなるだわ

亜希子 ああ

まゆみ 建てるとしたら、また寄付だわ
亜希子 そうだわ。またか

はるか 寄付？

まゆみ うん

美香 そんな

上手側より、麻紀の声

麻紀 (こんにちは)

亜希子 あれ

美香 来たわ

忠雄 だれかや？

麻紀、登場

麻紀 ごめんなさい。遅くなって

亜希子 おう、きたか

麻紀 何か、大変な事になってるだね

美香 そうだよ

徹、登場

徹 どうも

はるか おかえり

徹、立ち止まる

徹 ええ？

はるか どうしたの？

徹、廊下へ戻り、上手側を見る

徹 ええ？

はるか なあに？

徹 カメラ、持ってきて

はるか えっ

徹 カメラ

はるか はい

忠雄 どうしただ？

はるか、上手にはける

忠雄、近づく

忠雄 おうー

まゆみ 何？

忠雄 ・・おう

徹 ね

亜希子 何だだ？

美香 さあ

まゆみ、忠雄に近づく

忠雄 来ちゃいけね！

まゆみ ・・何？

麻紀 なあに？

徹 いや、でも

忠雄 ああ、まあ、いいか
まゆみ もう

まゆみ、忠雄達の方へ

まゆみ あっ！
亜希子 何々？

亜希子、美香、麻紀、廊下へ近づく

亜希子 えっ
美香 えっ
麻紀 嘘
忠雄 しっ！

沈黙。はるか登場

忠雄 刺激的だわあ

まゆみ やめてよ

忠雄 しっ！静かに

はるか どうしたの

徹 カメラ

はるか はい

忠雄 ミッキーがミニーの上に乗ってるわ

徹、写真をとる

はるか やだ・・どうすんの、そんな写真とって

徹 せっかくだから
はるか ええ？

忠雄 ミッキーがミニーの上に、ミッキーがミニーのミニーの

徹 いや、もしかしたら、ミニーが上かもしれないよ

忠雄 (嬉しそうに) おう。そうだな。その方がその方が

まゆみ もう、やめてよ

忠雄 何言ってるんだよ、おまえだって

全員 おう！

沈黙

はるか 結構、情熱的なんですね。ねずみって

まゆみ はるかさん！

はるか あっ

忠雄 これはすごいわ

徹 ・・あの、せっかくですから、みなさん、写真取りませんか？

まゆみ えっ

忠雄 おう、そうだな

亜希子 えっ、どこで？

徹 あれを、バックに

美香 そんな

まゆみ いや

亜希子 ちよっと、恥ずかしいわあ

美香 うん。恥かしいねえ

麻紀 でも、せっかくだし

亜希子 でもさあ

徹、下手に動く

徹 はい、取りますよ。はるか

はるか、動く

はるか ・・はい

徹 じゃあ、行きますよう

亜希子 (後ろに向かつて) ごめんねえ、何か

美香 すぐ、終わるからねえ

徹 真ん中、あけてくださいね。でも、もうちよつと寄って・・

忠雄さん、後ろにかぶってます。右、右

忠雄 お、おう

徹 みなさん、表情、固いですよう。笑顔で、笑顔

みんな、笑顔になる

徹 はい、チーズ

徹、写真を取る

徹 ご苦勞様です

全員、軽く溜息

忠雄 ちよつと、そうつとしとくだな

徹 ええ

忠雄 大事なことで

麻紀 じゃましちやいけねわ

亜希子 そうだわね
美香 そうだわ、そうだわ

まゆみ以外、部屋に戻る

みんなが座りかける頃、まゆみが、足で廊下をたたく

忠雄 あっ

徹 えっ

忠雄、廊下へ走る

麻紀 ちよつと

忠雄 あーあ。何やってるだ、お前

まゆみ だって

忠雄 かわいそうだわ。そんな最中に。行っちゃったじゃねえか

まゆみ だって、増えるで。あんなことしたら、増えるで、ミツキ

忠雄 だからって、そんな

まゆみ 生まれたって、殺されるだけだ。私たちに

忠雄 それはそうだけど

まゆみ いいだ。これで、いいだ

まゆみ、部屋に戻る

忠雄も、少し廊下の上手を見て、部屋に戻る

忠雄 すまんなあ

麻紀 ちよつと、かわいそうだったわねえ

亜希子 うん

美香 うん

少し、沈黙

麻紀 やっぱり、少ないわ

亜希子 ん？

麻紀 ここにいる人がさあ

美香 ああ

麻紀 いつもは、もつといて、にぎやかだに

亜希子 なあ

麻紀 ねえ、本当だ？村が分かれるって

亜希子 うーん。まだ、分からないみたいだね

麻紀 だで、みんな、いないだね

美香 役場に行ってるで

麻紀 だって、この前までは、坂田に統合されるって話じゃ

忠雄 それが、どうゆう分けか、水下が三田と、水上は東郷と一

緒になるみたいだね

麻紀 そうなんだ

忠雄 あれさあ、多分、水下の金井さんがさ、動いてると思うだ

よ

美香 えっ・・ああ、そうか

麻紀 そうなの？

美香 まあ、噂だけど

麻紀 へえ

美香 あの人、村長になりたがってたで

忠雄 でも、まあ、今の村長には勝てないで、で、新しい市をつ

くればさ、あわよくばって考えてるすら

麻紀 ああ

忠雄 中心になって、こそこそやってるって言うで

美香 ああ

麻紀 そんな、急に新しい市になるって言われても

美香 ・・うん

忠雄 ・・でもさ、この、公民館も建て直すって話もあるだよ

美香 えっ

忠雄 古いで

まゆみ じゃあ、そっちも寄付だわ

美香 ああ

亜希子 そんな

美香 やだわ、そんなの

亜希子 うん。やだわ。私、好きだで。ここ

美香 うん。誰が決めたすら。そんな事

亜希子 勝手だわ。そんなの

麻紀 ・・でも、お祭はやるすら

忠雄 やるさ

麻紀 ああ

忠雄 祭はやらなきゃいけねことだで。決まってるで

亜希子 でもさあ、みんなのやる気がさあ。気分がさあ

忠雄 そんなの。簡単だで

美香 簡単って

忠雄 とにかく、祭はやるで

忠雄、立ち上がる

忠雄 ちよつと、物置見てくるわ

徹 ああ、じゃあ、僕も

忠雄 いいわ。もう少し休んでましよ

徹 ああ、はい
忠雄 確か、油があつたはずだが
美香 えっ

忠雄、退場

亜希子 何？
美香 油、物置の油、今家にあるだよ
亜希子 どうして。てんぷらでも揚げただ？
美香 違うわ。・・・いや、ちよつと、自転車の調子が悪くて
まゆみ 持ってたただ？
亜紀子 自転車揚げただか
美香 うん？・・・取ってくるわ
亜希子 まあ、近いで
まゆみ いくら、隣だつていったつて、駄目だわ。みんなのもんだ
で
美香 うん。ごめん。ちよつと借りるつもりが。取ってくる
亜希子 じゃあさあ、私も行くわ
美香 どうして
亜希子 トイレ
美香 ああ
亜希子 やだで、じいさんとか、トイレ借りに行くの
美香 ああ
亜希子 私も一応、女だ
美香 そうだったわ
まゆみ あ、私もいきたいわ。借りるわ
美香 えー・・・ああ、じゃあ、行くか
まゆみ 早く行ったほうがいいわ。あの人短気だ。ああ見えて

亜希子 十分短気に見えるわ
まゆみ そうかや
亜希子 うん
まゆみ はるかさんも行く？
はるか ああ
まゆみ したくなる、ちよつと前に行くのが・・・コツだ
亜希子 それは、じいさんのとこだわ
まゆみ ああ、そうか
美香 家はいつでもいいですよ
はるか ああ、でも、私もいつときます
まゆみ じゃあ
はるか ええ

亜紀子、まゆみ立ち上がる

美香 あんたは？
麻紀 私はい
美香 そう。家、すぐ横だ
はるか ええ
まゆみ どうして女つてのは連れ立ってトイレ行くずら
亜希子 習性だわ
まゆみ そうか。まあ、それが女の強さだわ
亜希子 何だそれ
美香 ゆっくり、休んで
徹 はい
はるか 行ってくる
徹 うん

女たち、がやがや上手へ

沈黙

麻紀 うるさいわ。女は。まるで鶏だわ
徹 ああ、元気ですよ。鶏は

沈黙

徹 暑いですね。今日は

麻紀 ……そうだね

徹 ……今日、来ないって聞いてたから…僕

麻紀 やっぱり、来たくなって。お祭りで。私、好きだ

徹 ……ああ…体調は、どうですか

麻紀 うん。昨日、病院いったんだけど。もう、大丈夫だって。

安定期に入ったで

徹 ああ

麻紀 はるかさんには、言っていない

徹 ……はい

麻紀 その方がいいわ

徹 ……でも

麻紀 一人で育てるで。大丈夫だ

徹 ……はい。何か、僕、分からなくなって

麻紀 えっ、

悲しいのか、嬉しいのか。それが、どっちが先かも分からなくなつて、分からなくなつて、分からなくなつて、分からなくなつて

麻紀 どっちが先でも、同じだ。私には

徹 ああ。すみません

麻紀 謝らなくていい。もう、しょうがない。どうしようもなく、私は嬉しいで、それしかない。あんたが無理なら、あんたの子だけでも、欲しくてさあ、私は。

徹 ああ

麻紀 黙ってれば、分からない。誰にも

沈黙

忠雄、下手より

忠雄 おお

徹 ああ…何か、油

忠雄 そうだよ。全く、困るわ

忠雄、座る

忠雄 油なきや、次に進めないで

麻紀 山車ですか

忠雄 そうそう。そうだわ、俺は麦茶飲みにきただわ。思い出したわ

麻紀 ああ

忠雄、上手へ

沈黙

忠雄 おお

二人、上手を見る

忠雄、上手よりコップを持ち登場

徹 どうしたんですか？

忠雄 いや、何でもなくて

徹 ああ

忠雄 たまに、意味もなくおどけてみたくなるので

徹 何ですか、それ

忠雄 意味のないことは、ワクワクするまで

徹 はあ、ワクワク

忠雄 中田さん、大丈夫なんですか？

麻紀 ええ

忠雄 無理しないで

麻紀 はい。でも、私お祭すきだで

忠雄 ああ。大変だわ。一人で、あれするつてのも

麻紀 あれ？

忠雄 いや・育てるのも

麻紀 いえ。まあ、しょうがないで

忠雄 ああ。でも、ここは、田舎だで

麻紀 ああ

忠雄 大変だわ

徹 ・・僕、ちよつと、タバコ取ってきます。タバコ、タバコ

忠雄 おお

徹、下手へ

沈黙

麻紀 昨日、行ったで。病院

忠雄 そうか

麻紀 元気だったわ。エコーで見たら

忠雄 うん。大事にした方がいいわ。今日だって、別に

麻紀 いいで。私が来たかったで

忠雄 ああ、でもさあ

麻紀 来ない方がよかった？

忠雄 いや、そんな事は・・ないですけれども？

麻紀 変だわ。言葉

忠雄 標準語喋ってみたわ。敬語も使ったわ。しかも疑問文だわ

麻紀 変なの

忠雄 おかしいで。最近

麻紀 大丈夫だで。まゆみさんには、言わないで

忠雄 ・・うん

麻紀 言つてないなら

忠雄 うん

麻紀 その方がいいわ

忠雄 ・・でもさ・・本当に言わないなら。まゆみには

麻紀 言わないよ。一人で育てるで

忠雄 ああ・・うん。悪いな。ちよつと、複雑だわ。やつぱり、

子供つて言うのは自分の体の延長だで

麻紀 ・・

忠雄 ごめんなさい

麻紀 いいで、私が決めたことだで、ごめんね

忠雄 うん

麻紀 私のこと・・好きかやあ

忠雄 ・・

麻紀 ちよつとくらい、好きかやあ

忠雄 すまん・・ちよつとだわ。としか言えないわ

麻紀 それでもいいわ。そしたら、この子と一緒に頑張れるでさ

あ

忠雄 ああ

麻紀 ・・・私も、お茶飲む

忠雄 じゃあ、俺が

麻紀 いい。自分で

忠雄 ああ

麻紀 もう、戻ってくるずら、みんな

忠雄 ああ

麻紀、上手へ

麻紀 (ああ、おかえり)

まゆみ (いってきました)

まゆみ、上手より

忠雄 早いわ

まゆみ とりえだで、私の

忠雄 おおそうか

まゆみ さて、やるか

忠雄 うん

徹、下手より

徹 忠雄さん、油きましたよ

忠雄 おお

美香 (まだ、言ってるわ)

亜希子 (だでさあ。メシだで、メシ)

美香、亜希子上手より

まゆみ やりや

美香 うん。あつ、おいといたで

忠雄 おお

美香 すみませんねえ

忠雄 いえいえ

亜希子 いっぱい使ってたわ

忠雄 えー

美香 そんな事ないで

忠雄 ああ・・じゃあ、そろそろやるか

徹 ええ

忠雄 ああ・・と・・そうだわ

徹 えっ

忠雄 あれ、直してもらうか

徹 えっ

忠雄 あれ

徹 あれですか

忠雄 いいずら

徹 ああ、でも

忠雄 大丈夫だわ。若妻会だで。ここわ

徹 ええ

忠雄 もう妻だで。恥ずかしくないわ

徹 はい

忠雄 あのさ、ちよつという塗って欲しいのがあるだよ

まゆみ うん。いいけど

忠雄 少しだで

亜希子 えー

忠雄 働け

亜希子 えー

忠雄 祭だで。年に一度のことだで

亜希子 えー

まゆみ 何色？

忠雄 赤

まゆみ 食紅って

美香 もうないわ

亜希子 絵の具あつたずら

まゆみ ああ、そつか

忠雄 頼むわ

まゆみ うん

忠雄 行くか

徹 はい

忠雄、徹、立ち上がり下手の方へ

忠雄 持ってくるで

まゆみ うん

忠雄、徹、退場

忠雄 あれだで。あれ
徹 ええ

・ 3 場 ・

はるか、お茶を片付け上手へ

まゆみ 絵の具、物置だったよね

亜希子 確かそうだわ

まゆみ 見てくるわ

亜希子 うん

まゆみ 下手へ

はるか ハケっていらいますか

まゆみ ああ、いるわ。多分

はるか はい

まゆみ、退場

麻紀、上手より

美香 さて、やるか

麻紀 ごめんね、遅くなって

亜希子 いい、いい

美香 私たちも、そんなにやってないで

麻紀 ああ

亜希子 それより、大丈夫だだ？・・・体調とか

麻紀 うん。平気だわ。

美香 ああ

麻紀 もう、安定期だで

美香 うん

麻紀 私、好きだで。こういうの。準備とか
亜希子 うん
麻紀 やりや
美香 うん
亜希子 なあ
麻紀 ん？
亜希子 ・・あのさあ・・父親って・・
麻紀 うん
亜希子 たかし君？じゃないよね
麻紀 違うよ
亜希子 そう
麻紀 内緒
美香 ・・うん
亜希子 ・・私ちよつとさあ
美香 ん？
亜希子 ちよつと、一旦、帰るわ
美香 えっ・・ああ、そうか
亜希子 悪い
麻紀 どうしただ？
亜希子 うん
美香 お母さんの、体調が、ね。悪いんだって
麻紀 ああ、そう
亜希子 ボケがさあ、ひどいだよ
麻紀 ああ
亜希子 何だか、分けの分からない事いつてるで
麻紀 ああ
亜希子 今いろいろな世界に生きてるで。忙しいわ。こっちも忙しくて

麻紀 あんなに、しっかりしてたに
はるか、ハケを持って登場
はるか 中田さん、いつ予定日なんですか？
麻紀 ああ・・えつとね、2月
はるか へえ
麻紀 お宅は？
はるか 家はまだ
麻紀 そう
はるか あつ、ハケってこれで良いんですよ
美香 うん。これだわ
麻紀 行けば
亜希子 うん。これだけ作ったら
麻紀 うん
はるか、竹の棒を持ちに行く
麻紀 お祭、はじめてなんですよね
はるか ああ、はい。だから、もう楽しみで
麻紀 そう
はるか これ、糊ですか
美香 うん。棒に糊を二点つけて、こうやって、まいていくだよ
はるか へえ
まゆみ、絵の具をもって登場
亜希子 あった？

まゆみ あった。ああ、お皿、お皿

まゆみ、上手へ

亜希子 じゃあ、行くわ

美香 うん

忠雄、ダンボール（中には木で出来た男根状の棒）を持って、登場

忠雄 これだ

美香 うん・何？それ

忠雄 おお、これだわ

麻紀 えっ

はるか えっ

忠雄 男根

美香 えっ

亜希子 だいこん？

忠雄 男根！

亜希子 ああ。まあ、同じ様なもんだわ

美香 えっ、これ・私たちが塗るの？

忠雄 おお、頼むわ

美香 やだー

忠雄 いいずら

美香 やだわ

はるか 何に使うんですか？

麻紀 若連のね、踊りで

はるか これ、使うんですか？

麻紀 そう。面白いよ。ちょっと、怖いけど

はるか ああ

忠雄 ちょっと、すすけてきだで、色が

美香 えー

まゆみ、お皿をもって登場

忠雄 おお、これだ

まゆみ ああ、これか

忠雄 頼むわ

まゆみ うん

美香 普通だわ

亜希子 普通だわ

麻紀 さすがだわ

まゆみ 何？

美香 いや

忠雄 また、来るで

まゆみ うん。頑張ってる

忠雄 おお

忠雄、下手へ

美香 これか

まゆみ 先にこれやりや

美香 えー・私いいわ、花巻やってるわ

まゆみ そう。じゃあ、はるかさん

はるか えっ

まゆみ 大丈夫だ

はるか 大丈夫って

麻紀 泣きそうだわ

はるか いや・・でも

まゆみ 大丈夫だで、こんな機会ないで

美香 まあ、そうだけど

まゆみ みんなでやりや

美香 ああ

麻紀 まあ、乾くのにかかるで、さーとみんなでやった方が

まゆみ うん。その方が早いで

はるか ああ・・はい

美香 じゃあ、やるか

花巻を片付けダンボールを真中に

まゆみ 新聞紙は

亜希子 これでいいわ

まゆみ ああ

美香 ちよつと、どきどきするわ

まゆみ 何で

美香 何でもない

ダンボールから棒を出す

まゆみ よし、塗るか

麻紀 うん

みんな、棒をじつと見る

まゆみ こうゆう時は、あんまり、いろいろ考えちゃいけないでね。

美香 この際、経験値は無視するだ

まゆみ 何それ

麻紀 いや・・無心でやった方がいいで

まゆみ ああ

麻紀 ・・私これ塗るわ

美香 あたしこれ

はるか これでいいわ

私

みんな、大きいのを取る

亜希子 みんな、見栄っ張りだわ

まゆみ どうゆう事、それ

亜希子 いやいや

美香 あんた、行かなくていいの

亜希子 へえ、いくわ

まゆみ えっ、帰るの？

亜希子 また来るで

まゆみ うん

亜希子、下手へ

亜希子 じゃあ、頑張っ

美香 ああ

麻紀 今の頑張っには、いろいろな意味が含まれてるわ

まゆみ えっ

麻紀 何でもない

まゆみ ハケが足りないわ
美香 足りなきゃ、いいわ
はるか あっ、もつとありましたよ

はるか、上手へ

美香 ああ
麻紀 やる気だわ、意外と。笑ってたで
美香 うん。一人二本か
麻紀 そうだわ
まゆみ 色はさあ・・こんなもんかや
美香 ああ
麻紀 どうずら
まゆみ うーん

はるか、登場

はるか ありました
まゆみ ありがとう
まゆみ こんなもんずら
麻紀 こんなもんだわ
まゆみ いいね
麻紀 いいわ
まゆみ 実際
麻紀 うん。こんなもんだわ
まゆみ うん。これだわ
美香 これって
まゆみ いや、この、色が、こうだって事だわ、私が言ったのは

美香 でも、実際って・・ちよつと、黒入れたら？

まゆみ ああ

麻紀 青も入れたほうがいいじゃねえ

まゆみ ああ・・・何か、ドス黒くなったわ

美香 本当だわ

まゆみ もう・・黄緑入れるか

麻紀 駄目だわ。もつと黒くなるわ

まゆみ ああ

はるか 赤をもつと足したらどうですか？

まゆみ ああ・・・これだわ

美香 うん。これだわ

まゆみ これは、私たちが目指してた色だわ

美香 目指してたって、何を目標にしてるだけ

まゆみ 違う！この、元の色って事だわ

美香 ああ

まゆみ この場合、リアリティーはどうでもいいで

麻紀 塗りや

美香 うん

沈黙

美香、大きな男根を持ち

美香 でもさ、こんななんないわ。現実には

麻紀 うん。ないわ

まゆみ みたことないわ・・・ねえ、知ってる？これ日に当てる

と、男は女にもてるようになるだって

麻紀 うそ

まゆみ 本当。うちのばあちゃんが言ってたで、本当だわ

美香 どうしてずら？

まゆみ ん。詳しい事は分からないわ。でも、多分・光合成と
かするじゃねえ

麻紀 まさか

まゆみ 活性化するだわ。これが。いつもは日にあたらねで

美香 ああ、そうかあ

まゆみ で、運気があがるだわ

麻紀 そんなことあるだかやあ

まゆみ ある

美香 ・・・これ、全部塗るだ？

まゆみ まあ、そうだわね

美香 うん。そうか・あのさ、これ見て思い出したんだけど
さ。昔ね、昔っていうか、5、6年前か。いとことさあ、
温泉に行っただよ

麻紀 どこ？

美香 その山の裏

まゆみ へえ

美香 無料の露天風呂があつてさ

麻紀 ふうん

美香 夜中にね、いとこの男の子3人と行ったんだけどさ、もう、
外灯も消えてて。少し斜面を登ったらそこに、あつて、で、
入って。いいお風呂でさあ。でも、暗くて恐いから、私は
割りと早く出て、下で待ってただよ。そしたら、男風呂か
ら、ギャーって悲鳴が聞こえて

麻紀 うん

美香 いとこが、階段を駆け下りてきたの。真っ裸で

まゆみ えー

美香 男三人が、これ、ぷら〜ん、ぷら〜んて

麻紀 えっ

美香 走ってきただよ。私のほうに、ぷら〜ん、ぷら〜んて。す
ごい勢いで

まゆみ ええ？

美香 もう、びっくりしてさあ。この、ありさまに。あきらかに、
体とは違う動きの生き物がさあ、私めがけて走ってくるの。

麻紀 そんなで、私の前に三人が来て、ゼイゼイ、ゼイゼイ言っ
て、それ見てどうしていいか、分からなくなって、私、泣
いただよ。大声で。わーんって

麻紀 ああ

美香 結局ね、どうやら着換えようとして、懐中電灯をつけたら、
蛇が10匹くらい、いたみたいで。それで逃げてきたんだ

まゆみ やだあ

美香 でもね、面白かったのがさあ。いとこ達がゼイゼイ言っ
て私の前に立った時、これもね、ゼイゼイ言ってたの。

麻紀 まさか

美香 本当、苦しそうだったんだもん

まゆみ ありえない

美香 本当。だって、男の人って体に別の生き物をつけてんだよ

まゆみ 生き物って

美香 生き物だよ。まあ、つけてるっていうよりは、飼ってるね

麻紀 うそお

美香 しかも、饒舌なの。

麻紀 そんなのいわ

美香 だって、本当にこいつ喋ってたもん「いや、まいったなあ」

麻紀 っ

美香 っ

美香 っ

美香 っ

美香 っ

美香 っ

美香 っ

美香 っ

まゆみ まさか

美香 「急に走るなよ。心の準備つてものがさあ」って

麻紀 心、あるんだ

美香 あるよ、多分。(男根に向かって)ね

麻紀 あるかやあ。ふうん

はるか こんなもんですかね

まつみ 早いわ

美香 うん

麻紀 上手だわ

はるか そうですか

美香 嬉しそうだわ

麻紀 うん。負けないわ

美香 うん

まゆみ これは、意外に早く終わる

美香 うん

はるか どうでしょうか。塗り終わったのは

まゆみ ああ。どつかに、新聞紙しいて乾かすか

はるか そこでいいですか？

まゆみ うん

はるか、上手側に新聞紙をしき、男根をおく

美香 誰が作ったずら、これ

まゆみ ああ

美香 まあ、夢みたいなものだわ

まゆみ えっ

美香 男の夢だわ。これは

はるか、真剣にやる3人をじっと見る

まゆみ こんなもんだね

麻紀 こんなもんだわ

まゆみ 実際

麻紀 うん

まゆみ ・・・どうしただ？

はるか いえ

はるか、戻り仕方なく塗りだす。意外に早い
集中する4人

美香 静かだわ

まゆみ みんな集中してるで

美香 うん

まゆみ 今日一番の集中力ずら

美香 本当だわ

まゆみ ・・・なあ、亜希子さんはどうしただ？

美香 ああ、ほら、お母さんがさあ、ボケちゃって

まゆみ ああ

美香 何か、大変みたいだよ

まゆみ 聞いたわ。あそこの家の近くに、うちの同性がいるで

美香 そう

まゆみ 夜中に徘徊するって。困るってみんな文句いってたわ

麻紀 ああ。大変だわ

美香 うん

まゆみ あんまりひどかったら、施設にでも入れればいいに

美香 まあ、そう言ってもさあ、そうしたら、そうしたで、また

みんなにいろいろ言われるで

麻紀
ああ

まゆみ でもさあ、近所迷惑とかあるで。考えたほうがいいわ

美香 ・・ああ。まあ、そう簡単にはいかないで

まゆみ どうして

美香 どうしてって・・親だで、難しいわ

まゆみ そうかや

麻紀 そりやそうだわ。いろいろあるで

まゆみ いろいろって？

麻紀 いろいろは、いろいろだわ

まゆみ 分からないわ

麻紀 親のことだに、どうして分からないだ？

まゆみ いないで。私は

麻紀
ああ

まゆみ 大分前のことだで。本当に、分からないだよ

美香
ああ

まゆみ 想像はつくけど、想像はやっぱり想像だで。微妙だで。結構寂しいことだで。そんなの、私、もういやだで・・出

来たわ。二本出来たわ

はるか
私も

美香 二人とも、早いわ

まゆみ そうだわ、はるかさん

はるか
はい

まゆみ 安協のお金、払った？

はるか あっ、いえ

まゆみ あと、はるかさんのとこだけで

はるか
ああ、はい

麻紀
出来た

美香 うそ

はるか あれって、やっぱり、払わないといけないんですよね

まゆみ そりやそうだわ。みんな払うで

はるか
ああ。手、洗ってきます

はるか、上手へ

美香 出来た

まゆみ よし

みんな、並ぶ男根をじつと見る

美香 ちょっと、異様な光景だわ

麻紀 うん。地面から生えてるわ、男が

美香
ああ。そうか？

麻紀 こわいわ。こんなにあると

美香
うん。こわい

3人、並ぶ男根を静かに見つめる

まゆみ ・・あーあ。手が真っ赤だわ

美香、上手へ

麻紀 うん

まゆみ さあ、次は花巻だ

麻紀、立ち上がり上手へ

麻紀 落ちるかやあ
まゆみ ……落ちるさあ

まゆみ、上手へ
はるか、上手より
じっと、男根を見て大きいため息

はるか こんなん、あるわけないじゃん

美香、上手より

美香 疲れたずら
はるか いえ

麻紀、まゆみ上手より

まゆみ さーさー

麻紀 さーさー

まゆみ やるか

美香 何か、疲れたわ。また

まゆみ また

美香 だって

まゆみ 急いで、花巻やった方が言い。氏子が帰ってくるまでに

は

はるか もう、戻ってきますかね

まゆみ ああ、分からんわ。もめてるみたいだ

はるか ああ

美香 本当、どうなるずら

麻紀 うん

まゆみ まあ、どうなろうと、私たちにはしょうがない事だわ

美香 そんな事ないで

まゆみ でもさあ

美香 だって、もし、分かれたら、お祭はどうなるだ？

麻紀 ああ、そうか

美香 お宮、そっちだ

まゆみ それは

美香 それに、この若妻会だって、なくなるわ

はるか ああ

まゆみ ……そしたら、そしたで、また、新しく作ればいいわ

美香 そんな…まゆみさん、さつきから、戦うとか、どうとか、

こうとか、言ってるけど、実際、戦わないで

まゆみ えっ

美香 何にもしないで

まゆみ してるわ。こうやって

美香 これはお祭の準備だ。小さいことだ

まゆみ でも、やらなきゃいけね

美香 もっと、大きなことがあるわ

まゆみ 私たちには、これしかない。武器がないで、つくるしか

ない。大体、戦う場所が用意されてない。男と違うで

美香 そんな事ないわ

長い沈黙

亜希子、上手より

亜希子 おお、やってるわ

麻紀 あれ、早いわ

亜希子 うん。寝てたで、そのままにしてきたわ

麻紀 そう

亜希子、座る

美香 いいに。まだ

亜紀子 うん。でもさ。まあ、楽しいで

まゆみ ねえ・・・大丈夫だだ？

亜希子 えっ

まゆみ 勝手に歩き廻るような人を、家に置いといて

亜希子 ・・何が

まゆみ 迷惑とか、あるで。近所に

美香 そんな、まゆみさんには関係ないわ。言いすぎだわ

まゆみ 私は・・・分かってないで。だで言ってるだ

亜希子 大丈夫だで。紐でくくってあるで。歩けないわ

まゆみ えっ

亜希子 どうしても、手元においときたいで。親のいないまゆみさ

んには分からないわ

まゆみ

・・・

沈黙

亜希子 さて、私もやるわ

麻紀 ああ、うん

亜希子 ふうん。出来ただね、大根

美香 男根！あつ

麻紀 自分で言ってるわ

美香 うるさい

亜希子、触る

亜希子 結構、乾いてるわ。あつ、でも手につくわ。まだ

麻紀 そうだよ。木で吸収するわ

亜希子 壮観だわ。これだけあると

麻紀 ねえ

亜希子 こんなに、一気に見たことないで

美香 何言ってるだか

亜希子 あつ

亜希子、上手へ

美香 どうしたずら

麻紀 さあ

亜希子、たまねぎ、卵、オレンジを持ち上手より

亜希子 遊びや

まゆみ ちよつと

亜紀子 いいわ

まゆみ そんな。亜紀子さんはやってないで

亜紀子 いいで・・・私。今やりたいで

亜希子、たまねぎを転がす

まゆみにあてる

まゆみ 痛い！

亜希子 ごめん、ごめん。これじゃ、駄目か

美香 何やってるだか

亜希子、オレンジを転がす

男根が倒れる

亜希子 ああ、おしい

美香 ボーリングだわ

麻紀 おもしろそう

まゆみ ちよつと

亜紀子、男根を直しに行く

亜紀子 まだ、少し手につくわ

麻紀 いいわ。洗えばいいで

麻紀、オレンジを転がす

まゆみ ちよつと

亜希子 あっ

麻紀 うまいわ。私

美香 私も

麻紀、男根を亜紀子と直す

麻紀 本当だわ

亜紀子 な。ちよつと、興奮するわ

麻紀 何言ってるだか

美香、転がす

まゆみ ちよつと

美香 おしいわ

亜希子 はるかさん

はるか えっ

亜希子 やろう

はるか はい

はるか、転がす

みんな おー

美香 うまいわ

亜希子 一番だわ

麻紀 まゆみさん

まゆみ えー。いいわ

亜希子 本当はやりたくせに

まゆみ やりたくないで

亜希子 勝負だで。戦いだで。これは

まゆみ えっ

亜希子 女の戦いだわ

麻紀 ああ

美香 武器はオレンジだわ

亜希子 主婦らしいわ

美香 ああ

はるか、卵を握る
まゆみ、しぶしぶ立ち上がる

麻紀 やるわ
亜希子 うん

まゆみ、転がすが、一本も倒れない

亜希子 ヘタだわ

まゆみ うるさい。もう一回

麻紀 でもさあ、ボーリングのピンで、8本だったっけ？

亜希子 いくつすら

美香 ああ

はるか 10本ですよ

亜希子 ああ、そうか

はるか 卵じゃダメですかね

麻紀 それじゃあ、ダメだわ

はるか ああ

徹、下手より

麻紀 スコアつけるか

美香 そうするか

徹 おっ

亜希子 ああ、一本来たわ

はるか えっ

徹 えっ

忠雄 (タバコ、忘れてるわ)

徹 ああ。すみません

亜希子 これで10本だわ

まゆみ 何言ってるだか

忠雄、登場

忠雄 あっ、何してるだあ！

まゆみ あっ

忠雄 駄目だで、そんなことしちゃあ

亜希子 ちよっと、遊んでただけだ

忠雄 いけね。全く。手が真っ赤だわ

まゆみ ああ、うん

徹 すごいな

はるか ねえ

忠雄 駄目だわ。大事にしてもらわないと

まゆみ ごめん

忠雄 この中には男の脳みそが詰まってるで

まゆみ 何それ

忠雄 そうゆうもんだで

まゆみ おかしいわ。じゃあ、もっと、その脳みそで考えた方がいい

いわ。考えないで、女はいつも殺され続けて

山車は出来ただ？

亜希子 おう

美香 見に行くか？手洗ったら

亜希子 行くか

忠雄 立派に出来たわ。あとは花巻だわ

美香 ああ、また、頑張るで

亜紀子 落ちるかやあ
美香 落ちるすら

亜希子、上手へ

忠雄 頼むわ
美香 うん

美香、はるか、上手へ

まゆみ じっと立ったまま

忠雄 早く、手、洗って来い

まゆみ ・・うん

忠雄 山車、見て来い

まゆみ はい

まゆみ 上手へ

忠雄 全く、女は。子供だわ

徹 ええ・・やっぱり踊るんですよね。僕、これ持って

忠雄 おう

徹 ・・ああ

忠雄、男根を持ち

忠雄 俺はこれで踊るわ

徹 ああ

忠雄 ジャストサイズだわ。ピッタリサイズだわ

徹 ・・

忠雄 徹君はこれがいいわ

徹 えっ、そんな・・知らないくせに

忠雄 いや、悪い悪い。俺の想像力は乏しいで

徹 ああ

徹、大きな男根を持つ

忠雄 それか

徹 はい

はるか、上手より

男根を持つ二人を見る

はるかの視線に気づき、男根を置く

忠雄 俺、戻るわ。あいつらに教えることあるで

徹 ああ、はい。僕、ちよっと、水飲んでから

忠雄 おう

忠雄、下手へ

徹、倒れた男根を立てようとするが、なかなか立たない

徹 水、飲んでくる

徹、上手へ

はるか、また、一人

男根達をじっと見る

さっきの卵を握っている

はるか　こんなに沢山いるのかしら？いらぬよ。一つだつて大変なのよ

徹、上手より

徹　あれ？・・・見に行かないの？
はるか　・・・うん

はるか、花巻の中から紙の花を探し持つ
徹、座る

はるか　どうして、そんなとこ座るの？
徹　ああ。うん

徹、座りなおす

はるか　ねえ
徹　ん？
はるか　何でもない
徹　ああ・・・どうした？

はるか、手にもっていた紙の花を徹に渡す

はるか　これ、髪にさして
徹　えっ
はるか　あなたの
徹　髪？

はるか　あたま
徹　ああ

徹、耳にかける

はるか　効果ないか。紙の花じゃあ
徹　えっ・・・どうした？
はるか　生の花をね、髪に飾るとね、母親が早く死ぬんだつて！
徹　・・・

はるか　大丈夫だよ。それ、紙の花だから。嘘だから
徹　おい

はるか　ねえ・・・私、ここ、嫌。ずらずら、だーだー言つてて
徹　ああ
はるか　いらぬのに。言葉の語尾につけるだけで。必要ないのに
徹　ああ

はるか　もし、統合の話が本当だったら、あなたの通つてた小学校、別の市になつちゃうよ

徹　・・・うん
はるか　じゃあ、ここにいる意味ないでしょ

はるか　そのために来たのに。ここで、子どもつくつて、で、通わせたいんですよ
徹　でも、僕、やっぱり好きだよ、ここ。昔のまんまで
はるか　それが嫌なのよ！

はるか、床をたたく

はるか　痛い！

徹 えっ

はるか 言ってよ

徹 えっ

はるか ちゃんと、言って、私と喋って

徹 おい

はるか ちゃんと、言ってよ、聞こえないよ。どうして私と話してくれないの？言って、言って、言って、言って、言って、言って・言ったふりしないでよう。聞こえないよお。私には、聞こえないの。

徹 言ってるよ。今だっけこうやって

はるか 聞こえない！何にも聞こえない

徹 お前が喋らせてくれないんだらう

はるか 違う！頑張ってる事なの。頑張ってるよ。頑張ってる、頑張ってる。私に頑張ってる。私も頑張るからあ。一緒に頑張ろうよ

まゆみ (まあまあだわ)

麻紀 (よく出来てたわ)

まゆみ (ちよつと斜めなのが気にかかるわなあ)

まゆみ、麻紀、上手より

まゆみ さて、やるか

麻紀 ええ

まゆみ 急がないと

麻紀 うん

徹 また、あとで

徹、退場

はるか ……

まゆみ やりましょや

はるか はい

3人、花巻を作り出す

麻紀 あんなに、大きかったけねえ

まゆみ ああ

麻紀 一年ぶりだぞ

まゆみ あんなもんだわ

麻紀 そうか

沈黙

麻紀 どうしただ？

はるか えっ、いえ。何でもありません

まゆみ あの二人、来ないわ。

麻紀 仲いいで

まゆみ おかしな二人だわ

麻紀 ずっと一緒だぞ、二人は。小学校から就職した会社まで。結婚まで同じ時期だったときには、さすがに二人とも驚いたらしいわ

まゆみ ……へえ

沈黙

まゆみ ねえ、中田さん
麻紀 ん？
まゆみ どうして、今日、きただ？
麻紀 えっ
まゆみ 嬉しいけど。手伝ってくれるのは。でも、ここは若妻会だ
で
麻紀 ああ
まゆみ 中田さんは妻じゃないで
麻紀 いけないだ？
まゆみ いけないわね
麻紀 そんな。お祭はみんなのもんだで
まゆみ ・ ・ ・
麻紀 関係ないわ。
まゆみ でもさ
麻紀 まゆみさんに言われたくないわ
まゆみ それ、どうゆうこと？
麻紀 私のが気に入らないだけじゃ。実際
まゆみ ああ、そうだわね。田舎じゃ通用しないで
麻紀 えっ、何が
まゆみ だから、父親のいない子供産んだってしょうがないで
麻紀 ・ ・ ・
まゆみ 可哀想なだけで
麻紀 私の勝手だわ
まゆみ みんな、そう思ってるで
麻紀 それも勝手だわ。どう、思おうと
まゆみ 大体、父親だって、いえない人すら
麻紀 ・ ・ ・
まゆみ ここの人すら

麻紀 違うで
まゆみ 汚いわ。あんたわ
麻紀 知ってる？男はきつと、少しでも長くこの中にいたいだよ。
私はここに、いてくれただけで嬉しいで。ここで守るしか
ないで
まゆみ 何を分けのわからないことを
麻紀 うるさいわ
まゆみ は？
麻紀 鶏みたいだわ。さつきから鳴きつばなしで
まゆみ 何？
麻紀 鶏だわ。あんた達は。無性卵しか産めない鶏だわ。そうや
つて、ずっと生まれぬ卵温めるといいわ。何が足りな
いか気づいてないで。男がいなきや
まゆみ うるさい！ ・ ・ 黙れ、女
まゆみ、男根を投げる
まゆみ そんなに欲しかったら拾うといいわ：：拾って欲しいわ：：
拾え！
麻紀、男根を拾う
まゆみ みぐさいわ！
麻紀、男根をダンボールへ一気に投げ入れる
ダンボールを持ち上げる
麻紀 これは私のもんだで

麻紀、下手へ退場

まゆみ ……今日はもうこれで終わりだわ

まゆみ、新聞紙をまるめる

まゆみ こうなったら、戦うしかないわ

はるか えっ

まゆみ 言葉じゃ足りないわ。殺せないわ

はるか ああ・・・ええ

まゆみ 戦うか

はるか いえ。私は女ですから・私の卵は殻が硬いですから・

だって、あの人、入ってくるだけなんですよ。ただ、ここにいたいだけなんです。私は、そんなの許せない。我慢できない。でも、しょうがないから、だから、私という女は、ずっと、無性卵を生み続けていくしか

まゆみ 私は戦うでね。守るで。私にしか守れないで

まゆみ、花巻を握り締め下手へ

はるか、お皿と新聞紙を持って上手へ

・4場・

祭のあと

下手から忠雄登場

少しして徹、登場

徹 ……

忠雄 おお

徹 これ、ここでいいんですよ

忠雄 うん。そこに立ってかけておいてくれれば

徹 はい

忠雄 あとで、みんな取りに来るで

徹 ええ

徹、座る

忠雄 疲れたかい

徹 ええ

忠雄 今年はすごかったわ。異様な盛り上がりだったわ

徹 ああ・いろいろな意味で、すごかったです

忠雄 ああ、そうだな

沈黙

忠雄、起き上がる

忠雄 もうじき、来るわ。

徹 えっ

忠雄 若妻会

徹 ああ

忠雄 慰労会の準備するで

徹 来るんですかね

忠雄 ああ、分らんわ

徹 ええ
忠雄 でも来るわ。また、カレー作るなら
徹 ああ
忠雄 あれしか作らんで
徹 そうなんですか
忠雄 うん。バカの一つ覚えだわ
徹 ああ

沈黙

忠雄 はるかさん、大丈夫かや？
徹 えっ
忠雄 何か、えらく動揺してたで
徹 ええ。おかしいんですよ。はるか。どうゆうわけか、この前からずっと卵握ってて。温めてるみたいで
忠雄 ああ。まゆみも、何かおかしいだよ。元々おかしかったけど、昨日から特に変だわ。何だかわけのわからないことばっかり言ってるわ
徹 ・・・ああ

沈黙

徹 もう、ここにはいないんじゃないですかね
忠雄 ・・何が
徹 ミツキー
忠雄 ああ。そうかもしれんわ
徹 そんな気がします
忠雄 誰かが始末しただわ

忠雄、少し踊りだす

徹 どうしたんですか？
忠雄 昨日の続きだわ
徹 そんな踊、してないじゃないですか

徹も少しやってみる

花巻の横に寝ころぶ徹が花巻を手取る

徹 えっ
忠雄 ん？
徹 これ
忠雄 ・・・

忠雄、血のついた花巻を手にとる

忠雄 これは
徹 ・・・
忠雄 俺が刺したのかもしれんわ
徹 えっ
忠雄 この、感触だわ。いや、まゆみかな。
徹 えっ
忠雄 俺だわ。中田さんの腹を刺した感触が想像できるで。今、できるで。こんなこと、今までなかったで。
徹 ・・・
忠雄 今、出来るってことは、やっぱり俺かもしれないわ。いい匂いだわ。この血は俺の子供の血か。いや、中田さんの血

徹 か。なあ、何処からが、子供の血すら

忠雄 分らんわ。これじゃあ、自分殺したのと一緒にだわ・・・興

奮してるわ。俺

徹 忠雄さん

忠雄 ま、まゆみ。まあ、いいわ、どっちでも同じ事だわ

忠雄、ふらふらと花巻を持ったまま下手へ

徹、花巻の中にもう一本、血のついた花巻を見つける

徹 えっ・・・僕か。やつぱり。いや、はるか？あったかいよ。

死んだんだ。しょうがないよ。僕の居場所だから、そこは

徹、花巻を握る

徹 僕かな？この先に確か骨があたった感触が・・・想像できる。

子供の骨か、あれは

徹、下手へ

しばらくすると、美香、亜希子の声

美香 (暑いわ)

美香 (誰もいないのかなあ)

美香、上手より

美香 いないわ

亜希子 ちよつと休みや
美香 そうだね

美香、亜希子、座る

美香 花巻、置きっぱなしだわ

亜紀子 ・・ああ

美香 はあー

亜希子 また、カレー作らなきゃいけないわ

美香 うん。しょうがないで

亜希子 あんた、たまねぎ切ってよ

美香 やだわ

亜希子 どうして

美香 やだわ。泣くで

亜希子 私だつてやだわ。つらいで。にんじん切るで

美香 やだ。ジャガイモ切るわ

亜希子 私はにんじんと、肉切るわ

美香 えー

亜希子 苦手だで、たまねぎ。やだわ・・・でもさあ、肉あれでい

いだかやあ

美香 いいわいいわ

亜紀子、花巻の紙の花を手に取る

亜紀子 でもさあ、牛つて決まってるで。慰労会は

美香 ああ。誰が決めたずら

亜紀子 うん

美香 まあ、分からんわ

亜紀子 ああ

亜紀子、耳に紙の花をつける

美香 どうしただ

亜紀子 ・ ・ ・

美香 何やってるだか

亜紀子 ・ ・ ・

美香 何、黙ってるだ

亜紀子 ・ ・ ・

美香 あんたが無言だと。変だわ。変な音がするわ

亜紀子 ・ ・ ・

美香 ・ ・ ・

亜紀子 思考の音だわ。たまには私も考えるで

美香 ・ ・ ・ ああ、たまにだわ

亜紀子 本当。まねなことだ。いろいろ考えてるときは一人だ、

だで変な音がするだわ

美香 はずしたほうがいいわ。それ

亜紀子 ・ ・ ・ しょうがないで ・ ・ ・ 似合うずら

美香 似合わないわ。あんたには

亜紀子 ・ ・ ・ うん

美香 ・ ・ ・ もし、本当に村が分かれたら、私たちは違う町の人

になるだね

亜紀子 ああ

美香 村民プールはそっちだわ

亜希子 うん

美香 保育園もそっちだわ

亜希子 うん

美香 体育館も

亜希子 うん。でも、小学校と、中学はそっちだ

美香 ああ

亜希子 この公民館は ・ ・ ・ なくなるだか。そしたら、どっちのもの

でもないわ

美香 ・ ・ ・ うん ・ ・ ・ 私達、ずーっと一緒だったにね

亜希子 本当、びっくりするくらいだわ

美香 うん

亜希子 どうしてこんなに一緒だったずら

美香 うん ・ ・ ・ まあ、ここ出たことないで。私達は。そしたら

一緒さやあ

亜希子 ああ

二人、笑いあう

美香 お祭りも、別になるだかやあ

亜紀子 でもさ、お祭りなんて、年に一度のことだ

美香 ああ ・ ・ ・ でもさ、楽しいで、やっばり

亜紀子 うん

美香 まあ、今回みたいなことがあると、辛いわ

亜紀子 ああ

美香 本当、それ、似合わないわ

亜希子 ・ ・ ・ うん

美香 そんな事、したらいけねわ

亜希子 でも

美香 親だ ・ ・ ・ 頑張りや、な

亜希子 うん。ありがとう

亜希子、花を取る

美香 何？

亜紀子 いや、何でもないわ・・・麻紀は大丈夫かやあ

美香 ・・強い。大丈夫だわ

亜紀子 うん・・・なあ、子供はどっちだったずら？

美香 えっ

亜紀子 女かやあ。男かやあ

美香 ・・ああ

亜希子 きつと、男だわ。きつと

沈黙

美香 さて、そろそろやるか

亜紀子 ・・うん

美香 最後のカレーだわ

亜紀子 うん

美香 そしたら、それ食べたら、さよならだわ

亜希子 そうだなあ。さよならになるのかなあ

美香 さよなら

亜希子 でも、ずっと一緒だったで

美香 さよなら

亜希子 大丈夫

照明がだんだん暗くなる

亜希子 あれえ？

美香 ん？

亜希子 したかやあ？

美香 ん？

亜希子 八行・・・はひふ・・・へ

美香 んん？

亜希子 いや・・・まあ、いいか

美香 いいわ、いいわ

暗転

おわり

【作・演出】

高山さなえ

【キャスト】〈初演〉

上条 亜希子 根上彩

塩原 美香 田原礼子

西牧 まゆみ 端田新菜

西牧 忠雄 永井秀樹

北川 はるか 鈴木智香子

北川 徹 奥田洋平

中田 麻紀 工藤倫子

■東京公演「夏のサミット2002」参加

第8回劇作家協会新人戯曲賞第一次選考通過作品

【公演期間】

二〇〇二年七月十五日〜十七日

【会場】

こまばアゴラ劇場

【キャスト】〈再演〉

上条 亜希子 根上彩

塩原 美香 渡辺香奈

西牧 まゆみ 木崎友紀子

西牧 忠雄 永井秀樹

北川 はるか 鈴木智香子

北川 徹 坂本和彦(客演)

中田 麻紀 工藤倫子

■東京公演「夏のサミット2004」参加

【公演期間】

二〇〇四年九月一日〜五日

【会場】

こまばアゴラ劇場

■松本公演「第9回まつもと演劇祭」参加

【公演期間】

二〇〇四年九月十一日〜十二日

【会場】

まつもと市民芸術館

■弘前公演 スタジオ・デネガ提携公演

【公演期間】

二〇〇四年九月十八日〜十九日

【会場】

スタジオ・デネガ